

## 朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 10章38-42節 (新約聖書127頁)

一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

### ミモザの花束

今、お読み頂いたマルタとマリアのお話を聞くと、もてなしのためせわしく働いていたマルタが認められないのはかわいそうだと思うでしょう。でもそれは、女性は家事をするもの、男性のために陰で支えるものというバイアスが、なんとイエスの時代から二千年以上経っている私たちの心の深いところにもあるからではないでしょうか。

当時の背景を考えてみましょう。イエスの時代、社会全体の識字率は3%と言われていました。そして子どもや女性は男性にとっては家畜と同じでした。人前で女性が話を聞くことはありませんでした。そうした時代に、マリアが主の足もとに座って、その話に聞き入っていたという光景は、当時の人びとにとって驚くべきことだったのです。

この一年、米国警官による黒人殺害から“BLM”(Black Lives Matter)の運動が広がり、国内でもオリンピック組織委員会会長の女性蔑視発言から「#わきまえない女」へのツイート、そして駐日大使館、欧州連合

代表部のスタッフが手を挙げている画像と共に「#DontBeSilent」のツイートが広がりました。それも人種や社会的性差(Gender)を超えて広がりました。その内容はもうただ抵抗、抗議だけをするという内容ではありません。SNSを通して実際に社会が少しずつ変化しています。

今日、3月8日は国際女性デー(International Women's Day)です。マルタとマリアに象徴されるように奉仕をするのは女性、話を聞いても喋ってもいけない女性というバイアスは男女に関係なく、2千年を経ってもあるという事実と向き合いつつ、人間の尊厳について考えてみましょう。

この日、イタリアでは男性が女性に感謝を込めて黄色の“ミモザの花束”を贈る習慣があります。今は誰もが互いに贈る日になっているそうです。性差(Gender)を超えて互いに感謝を伝える日になっています。今、Facebook の Gender の欄には LGBTQ を超えて58種類あるそうです。日本版でもカスタムを選べば自由に書けるようになっています。どうか誰もが違いを超えて互いの話に耳を傾け、気持ちを伝え合える未来となりますようにと祈ります。

(しばらく黙祷しましょう)

英和女学院、英和生を愛し、励まされる主よ。

あなたはマルタとマリアに「必要なことはただ一つだけである」と言われました。あなたの慰めと励ましに耳を傾けることのできる恵みに感謝します。どうか私たちが互いに愛し合い、自由に学び、学び合う未来へと導いて下さい。今日から試験の結果が返却されます。試験は一つの結果ですが、学びのひとコマに過ぎません。どこでも、いつでも学び、学び合えることに感謝し、一日一日を大切に過ごさせて下さい。今日一日もすべてをあなたに委ね、安全で健康な学校生活をお守り下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン